

平成30年7月10日発行

東海生研 ～ メールマガジン 第163号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
 - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー
 - ☆ NPO 法人東海生研の行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆平成30年度「食品安全セミナー」 (東海農政局)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
 - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
 - ☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業(第3回公募) (農林水産省)
 - ☆平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ (JST)
 - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)
 - 未来創造ベンチャータイプ
 - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
 - ☆平成30年度 未来社会創造事業(探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)
 - ☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) 独創的な人向け
 - 特別枠「inovation」プログラム ICT 技術開発課題への挑戦者の公募(総務省)
 - ☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)
 - ☆民間の競争的研究資金
 - 5. 新技術情報について

◆1◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

【開催日時】平成30年9月4日(火) 13時30分～17時

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1208&1209会議室

【講演】

第1会場(1208会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○作物部会 14:30～15:30

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種『なるみ』等のナシ品種育成の現状」

農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成・病害虫研究領域 上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 15:40～16:40

「肉牛生産における SPAY（卵巣摘出術）のメリットと活用事例」

モーモークリニック 大久保幸弘 氏

第2会場（1209会議室）

○林産部会 13:30～14:30

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○食品部会 14:30～15:30

「果実（柿等の規格外品）のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

【技術相談】 案件の受付をさせていただき、後日、対応させていただきます。

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り（2500円）、事前申し込み

1209会議室で17時から18時30分

.....

☆東海生研行事予定

・第3回セミナー

開催日時：10月31日(水)13:30～17:00

開催場所：ウインクあいち

・アグリビジネス創出フェア in 東海

開催日時：平成31年1月29日～30日

開催場所：ウインクあいち

◆◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー」

(東海農政局)

○7月25日(水) 13時30分～16時

【場所】 東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】 東海農政局

【申込期限】 7月23日 17時まで

【開催案内】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180703.html>

第一部 「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課長 田中繁世 氏

第二部 「植物防疫・動物検疫の取組について」

名古屋植物防所 職員
動物検疫所中部空港支所 職員

【参加】参加費無料、定員40名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記URLからFAX又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森（啓）、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線2801)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX番号：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内をご覧ください。

.....
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 7月研究会

【開催日時】平成30年7月19日(木) 午後2時から5時

【開催場所】名古屋市市民活動推進センター 研修室

名古屋市中区栄三丁目18番1号

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 (052-228-8039)

【講演】

14時～15時20分

・「次世代の永久使用は、危機的な状況」

河田フェザー株式会社執行役員 黒田 健 氏

15時30分～17時

・「なたね油を通して、今の若者たちへ生き方を伝えたい」

株式会社 ほうろく屋 代表取締役 杉崎 学 氏

<https://hourokuya.com/interview/>

【会費】会員 無料 会員以外 1,000円 (学生 500円)

【懇親会費】講師を囲んでの交流会を予定しています。(自由参加)

会費 3,000円 場所：中国料理シルクロード上前津店

(会場へはタクシー乗合せ)

【お申込み】下記事項をご記入のうえ、下記メール宛てに件名を添えてお送り下さい。

CRN事務局行き E-mail: gt-keisoku@re.commufa.jp

件名：「7月19日(木)のCRN [研究会例会]」

研究会 出席 又は 欠席

懇親会 出席 又は 欠席

所属： 氏名：

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業（第3回公募） 農林水産省（農村振興局）

http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180702_7.html

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成30年7月2日～30日

.....

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、
平成31年3月29日（第3回）

.....

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、
平成31年3月29日（第3回）

.....

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴

う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、
平成31年3月29日（第3回）

.....
☆平成30年度 未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型）（JST）

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/open-call/research/h30/>

分野等：

1. 探索加速型（「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域、「共通基盤」領域）
2. 大規模プロジェクト型

公募期間：30年6月12日～7月31日

.....
☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）

独創的な人向け特別枠「innovation」プログラム

ICT 技術開発課題への挑戦者の公募

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000245.html

分野等：ICT 分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな ICT 研究開発課題への挑戦を支援する。

公募期間：平成30年5月22日～7月20日

.....
☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合（ICT × ○○）をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC（Proof of Concept：概念検証）に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記の URL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米麦関係

○硬質小麦タマイズミの縮萎縮病抵抗性を強化した「スーパータマイズミ」の開発

小麦品種「タマイズミ」は、国産唯一の白粒硬質小麦品種で、中華麺及び醤油醸造用としての品質が優れています。しかし、縞萎縮病の被害が大きいという問題があります。そこで、三重県農業研究所が代表機関となり、農研機構・次世代作物開発研究センター、栃木県農業試験場と共同して、DNA マーカー選抜法を用いて、コムギ縞萎縮病抵抗性を「やや弱」から「強」に強化した「タマイズミ R」を開発・品種化（平成 28 年 11 月品種登録出願）するとともに、縞萎縮病発生圃場で収量の向上を確認しました。「タマイズミ R」は、中華麺、醤油醸造において従来の「タマイズミ」と同等以上の評価が得られており、三重県では奨励品種に採用されています（平成 29 年 3 月）。（「研究紹介 2018」より引用）

・農研機構 HP：（研究成果） 縞萎縮病に強い小麦新品種「タマイズミ R」

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics-neo/075374.html

・農食研究推進事業における研究課題の内容：

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26085c_gaiyou.pdf

☆園芸関係

○軟弱野菜自動収穫ロボット実用化研究開発

ハウレンソウなどの軟弱野菜の栽培では、収穫・調整にかかる時間が全作業時間の大半を占めるために、収穫精度の高い自動収穫ロボットの実用化が望まれています。そこで、信州大学が代表機関となり、カイシン工業（株）、（株）西澤電機計器製作所、エムスクウェア・ラボ（株）、全国農業協同組合連合会が共同して研究を実施しました。研究成果として、①向きを揃えて自動収穫する技術を開発し、ハウレンソウを傷付けずに自動収穫することが可能となりました、②条に沿った直進走行技術は、条の境界に追従制御するためのアルゴリズムを構築し、圃場実験によって追従可能であることが確認されました、③これらを収穫機に搭載することで自動走行による収穫の可能性が確認されました。2019 年度には、ハウレンソウ収穫機がリリースされる予定とのことです。（「研究紹介 2018」より引用）

・農食研究推進事業における研究課題の内容：

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27021c_gaiyou.pdf

・信州大学工学部：ハウレンソウ自動収穫動画（You Tube）：

<http://www.shinshu-u.ac.jp/movie/2015/04/62168.html>

☆林業関係

○侵略的拡大竹林の効率的駆除法と植生誘導技術の開発

里山における放置竹林が周囲の森林や耕地に侵入する問題が生じています。このため、放置竹林を効率的に駆除し、広葉樹林等に誘導する技術を、森林研究・整備機構が代表機関となり、石川県林業試験場、大阪府立環境農林水産総合研究所、島根県中山間地域研究センター、愛媛大学農学部が共同して研究を実施しました。研究成果として、①塩素酸系除草剤の土壌散布とグリホサート系除草剤の切株注入は、竹の再生を抑制する効果が高いこと、②伐採の繰り返しにより竹を駆除するためには、7 年程度、年 2 回の刈払いが必要

であること、③空中写真で竹林と森林を識別するためには、竹の葉色が黄色味を帯びる4月～6月の画像を用いるのが有効であること、④竹駆除の様々な作業のコストを試算し、作業方法・手順を手引き書としてまとめました。（「研究紹介 2018」より引用）

・農食研究推進事業「研究紹介 2018」：

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/attach/pdf/fundresults2018-17.pdf>

☆水産関係

○未利用資源である磯焼けウニの食品としての健康機能性解明と蓄養技術開発

日本各地で磯焼け域が広がっていますが、磯焼け域に生息するウニは、餌となる海草が生育していないために、低品質な生殖巣しか持たない個体が大半を占めており、商品価値がないので漁獲対象になっていません。また、磯焼けウニが放置されているために、磯焼け域が拡大する要因ともなっています。

この対策として、磯焼けウニを用いた経済性の高い利用技術の開発が必要となっています。北海道大学を代表機関とし、熊本県立大学、産業技術総合研究所、北海道情報大学、(株)北清を共同研究機関とする研究グループにより農食研究推進事業が実施され、本研究成果が生まれました。研究成果として、①低コストの人工飼料を用いた新規ウニ養殖法を開発し、海洋での養殖籠を用いた実証実験に成功、②ヒト試験で腸内環境改善作用が確認され、特に、女性群では血中脂質改善作用が認められました、③ウニには抗肥満作用に関わるアラキドン酸等の機能性脂肪酸が豊富に含まれること、抗炎症成分であるフラン脂肪酸も豊富に含まれることが明らかとなりました。（「研究紹介 2018」より引用）

・農食研究推進事業における研究課題の内容：

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27018b_gaiyou.pdf

・浦 和寛・加藤 元「ウニ用高機能餌料の開発 ～磯やけのウニを商品化する～」

<http://www.noastec.jp/kinouindex/data2013/pdf/01/S04.pdf>

.....

編集後記

7月に入りましたが、サッカー・ワールドカップにおける日本代表の活躍に多くの方が拍手喝采し、残念がったことと思います。一方、西日本で集中豪雨により多数の方が亡くなられ、また被災されました。心より哀悼の意を表しますとともにお見舞い申し上げます。地球温暖化の現象の1つとして、集中豪雨の頻度の上昇と降雨量の増加が予測されていますので、過去の経験を超える豪雨を想定した対策・リスク管理を考える必要性を痛感します。また、トランプ大統領発の米中貿易摩擦が起き、世界・日本経済への悪影響が懸念され、対応・対策が必要となっています。社会・経済も自然環境も変貌しつつある中で、あるべき姿を見定め、的確な対応・対策をとっていくことが求められます。

ところで、最近読んだ本に川井雅司著「未来の年表2～人口減少日本であなたに起きること～」（2018年発刊、講談社現代新書）があります。本書は、前に本欄でご紹介したベストセラーの川井雅司著「未来の年表～人口減少日本でこれから起きること～」の続編です。今回は、少子高齢化や人口減少が人々の身近な暮らしにどのような形で降りかかってくるのかを具体的にイメージできるようにすることによって、国民一人一人が自分のこと

として少子高齢化・人口減少の問題をとらえ、もっと目を向けて欲しいという著者の願望が込められています。個々に挙げられた事例を概観すると、社会全体がスロー化し、不便になり、非効率化するとされ、例えば、買い物難民の問題はネット通販で解決すると思われていますが、運転手の数が圧倒的に足りなくなるので、先々はそうはならないと指摘しています。また、2050年代になると、毎年90万人規模で人口が減少し、国内マーケット向けに販売している業種は、深刻な需要不足に襲われることが予想されています。本書の最後に「今からあなたにできること」も提案されています。

著者の基本的な考え方は、少子高齢化・人口減少社会においては、過去の成功体験である「大量生産・大量消費」の拡大成長モデルを維持しようと無理するのではなく、「戦略的に縮む」ことによって豊かな日本社会を築いていくべきとしています。この考え方は、国家運営の基本にも関わるものであり、個々の対策の羅列ではなく、戦略的・総合的な検討を要する課題と思われま

=====
===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>